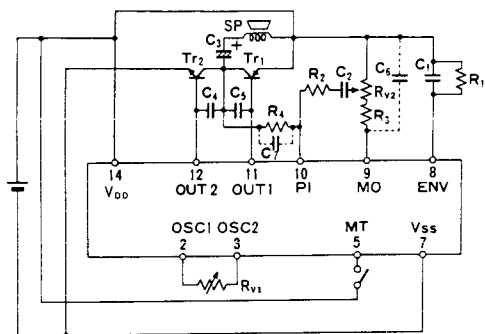


7930 CMOS MELODY IC (つづき)

応用例



記号	推奨条件	単位
R_{v1}	1.070中心	k Ω
R_{v2}	~50	k Ω
R_1, R_3	120	k Ω
R_2	51~150	k Ω
R_4	510	k Ω
C_1	4.7	μ F
C_2	0.1	μ F
C_3	100~300	μ F
C_4	0.01~0.047	μ F
C_5	0.01(接続しないことも可能)	μ F
C_6, C_7	0.001	μ F
Tr_1	(PNP) 2SA683 (2SA684)	—
Tr_2	(NPN) 2SC1383 (2SC1384)	—

- 注) 1. R_{v1} を変えたと発振周波数が変化します。ただし周波数安定性が悪くなる場合があります。
 2. R_{v1} を固定抵抗とした場合には個別回路間の発振周波数のばらつきが考えられます。
 3. R_{v2} で音量調整ができます。
 4. C_1, R_1 でエンベロープ回路のサステイン時定数を変えることができます。
 5. C_6, C_7 のどちらか一方(または両方)を接続すると音質が柔らくなりますが、音圧は多少低下します。
 6. 電池の内部インピーダンスが増加すると、発振周波数の変動が大きくなる場合があります。この場合 V_{DD} — V_{SS} 間にコンデンサを接続することをお勧めします。